

林先生の足跡

年	年齢		まわりの出来事	林研入学生(大学院)
1920	0	7月25日京都市北区にて生まれる。	関東大震災 (1923)	
1931	11	雑誌「子供の科学」に影響を受け、模型飛行機などを造る。	ハッブルの法則、世界恐慌(1929)	
1937	17	第三高等学校入学 柔道部に入部。 社会科学を研究する第一歩として東大物理学科を志望。 東大を選んだのは京都から一度離れてみたかったことによる。	二・二六事件(1936)	
1940	20	東京帝国大学理学部物理学科入学 大田区大森・世田谷区等々力・文京区白山の三ヶ所に渡り住む。	第二次世界大戦勃発(1939)	
1942	22	ベーテの原子核物理の論文、湯川らの中間子論文を南部陽一郎らと読む。 卒業後、海軍技師官 中国青島・呉・横須賀配属(～1945)	太平洋戦争開戦(1941)	
1945	25	12月に東大理学部物理学教室の嘱託に復帰。 住宅事情により京都に移ることを決意。	太平洋戦争終結(1945)	
1946	26	京都大学理学部 副手 無給だった。湯川秀樹に天体核の研究を勧められる。	日本国憲法公布(1946)	
1947	27	京都大学理学部 助手 「赤色巨星の内部構造」の論文発表	ガモフ「 α - β - γ 理論」発表(1948)	
1949		大阪府立浪速大学工学部(現大阪府立大学) 助教授	湯川秀樹 ノーベル賞受賞(1949)	
1950	30	「宇宙初期の陽子・中性子の存在比」の論文発表		
1951	31	結婚	サンフランシスコ講和条約(1951)	
1953	33	「非局所場理論のハミルトン形式」の論文発表(学位論文) この研究が湯川秀樹によって高く評価され湯川研へ。	基礎物理学研究所の設立(1953)	
1954	34	京都大学理学部物理教室湯川研 助教授		
1955	35	基研研究会「天体の核現象」に参加。		大山[小林研からの移籍]、津田(56)
1957	37	京都大学理学部 教授(核エネルギー学講座) 天体核研究室発足	初の人工衛星打ち上げ(ソ連)(1957) 東京タワー完成(1958)	辻(57)[湯川研からの移籍] 天野、湯川(58)
1959	39	NASAへの出張。電子計算機を初めて使用する。		杉本、百田(59)
1960	40	天体核研究室の院生に修士課程の一般教育を実施。		佐藤(文)、蓬茨(60)
1961	41	NASAを再訪。 林フェーズ基本論文発表。	クエーサーの発見(1961) ベルリンの壁建設(1961)	富田、中野(61)
1962	42	プロGRESS・サブプリメント 林・蓬茨・杉本「星の進化」出版	キューバ危機(1962)	鈴木、服部、元吉(62)
1963	43	仁科記念賞「天体核現象の研究」	東海道新幹線開通・東京オリンピック(1964)	宝田(63)、村井、渡辺(64)
1965	45	基研研究会「太陽系の起源」に参加。	宇宙背景放射の発見(1965)	中澤、成田、松田(65)
1966	46	朝日賞受賞 中間発表会の発足。	朝永振一郎 ノーベル賞受賞(1965) パルサーの発見(1967)	伊藤、日下、武田(66) 池内(67)、佐藤(勝)、佐藤(通)(68)
1969	49	「太陽系起源」の研究開始。	大学紛争(1969)	根尾、原(69)
1970	50	エディントンメダル受賞	大阪万博、ビートルズ解散(1970)	鈴木、富松(70)
1971	51	日本学士院賞と恩賜賞	マクドナルド日本1号店オープン(1971) 江崎玲於奈 ノーベル賞受賞(1973)	木口、美木(71)、亀井、高原(72) 中川、中村(73)、前田、水野(74)
1977	57	京都大学理学部長(～1979)	日中平和友好条約(1978)	小玉、観山(75)、梅林、佐々木(76)
1982	62	文化功労者		関谷(77)
1984	63	京都大学理学部 退職 退官記念講演で宇宙における最初の世代の星と銀河の形成について語る。 毎土曜日午後非常に非常勤講師室にてゼミを開始(成田・木口・観山らと共に)。 2003年まで続くこのゼミは先生にとって大きな生きがいとなった。	朝永振一郎 死去(1979)、湯川秀樹 死去(1981) 東京ディズニーランド開園(1983) 日本航空123便墜落事故(1985)	小笠原、小室(78)、大原(79) 伊沢、伏木(80)、小島(81) 長沢、森川(82)、岩田(83)
1986	66	文化勲章		
1988	68	京都市名誉市民	国立天文台発足(1988)、ベルリンの壁崩壊(1989)	
1994	74	勲一等瑞宝章	ソ連崩壊(1991)	
1995	75	京都賞	太陽系外惑星の発見、阪神・淡路大震災(1995)	
1997	77	IAU総会(於国立京都国際会館)に参加		
1999	79	放送大学の視聴を開始。広い分野の番組から欠けている知識を補充。	アメリカ同時多発テロ事件(2001)	
2003	83	自宅にてゼミを続ける(成田・木口と共に)。	小柴昌俊 ノーベル賞受賞(2002)	
2004	84	ブルースメダル受賞 京大会館にて開催された研究会「星形成と太陽系起源」に出席・講演		
2005	85	基研研究会「学問の系譜—アインシュタインから湯川・朝永へ」に出席・講演		
2006	86	日本天文学会百周年インタビュー(尾崎・福江)を受ける。		
2007	87	妻嘉子さん 永眠		
2010	89	2月28日 永眠 従三位を賜る。	小林誠・益川敏英、南部陽一郎 ノーベル賞受賞(2008)	